

えんがわ

第65号

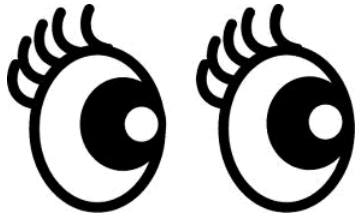
2012年8月発行

発行元
衣笠病院グループ
横須賀市小矢部
2-23-1
Tel 046-852-1182

かわいい我が娘

昨年6月に、女の子を出産しました。「自分の子はかわいいよ」と聞いていました。目に入れても痛くないとはこのこと。ずっと抱きしめていたいくらいです。

子どもが産まれて、私もこんなに両親に愛されていったんだな、必死に大切に育ててもらったんだなと、身をもって感じています。



私は医療福祉相談室に勤務しています。が、日々たくさんのご相談を受ける中で、ご両親の

介護などのご相談もたくさんいただきます。

どんなに大切なご家族のご相談をお受けしているのか、今までも分かってはいたつもりでしたが、最近はより感じることで増えたように思います。

日々の成長に驚き、目を細めながらも、大切なことを気づかせてくれた娘や日々出会う方々に感謝しつつ、何より両親を大切にしたいなと思う今日この頃です。



医療福祉相談室

山田裕美子

えんがわ在宅 ひとくちメモ 転ばぬ先の 疲れとり

遠い昔のことですが、私にも五、六歳の時がありました。しょっちゅう外遊びで転んでは、膝や肘を擦りむいてヨードチンキでテカテカさせていたことを覚えていません。成長し大人になると、環境や状況により上手く適応して行くことが必要になってきます。変化する生活の流れには、ついていかねばなりません。子供の頃のすり傷とは違います。普段つまづかないような段差にもひっかかるようなことになります。その時初めて自分の疲れの程に気づくことになります。それがいつしか当たり前になります。「機能不全」状態になります。私たちは歳を重ね

安定するどころか転びやすくなるのが常です。身体を支えきれ



ず、結果として重心が低くなった場合、逆に重心を高くするような身体の使い方が必要になるようです。そして動きの切り替えやストレッチを逃がせる身体の遊びも大切なようです。そんな運動プログラムや体操を考えながら仕事をしている頃の事です。

通所リハビリテーション部
部長 鈴木三四郎

幼少に父と行った夏祭り。転んで膝を痛め、背負ってもらった父の背中が、妙に汗臭かったのを覚えていません。「背中くさいよ。」と最近の妻の一言に、親のありがたさと自分の加齢臭に気づかされました。